

神栖市のキャリア教育 NEXT10

～10年間学ぶ意欲を継続させるために～

1 はじめに

茨城県の最東南端に位置する神栖市は、東は太平洋、西は利根川に面した、水と緑に恵まれた平坦な地形を有しています。人口は約 93,000 人であり、2005 年の旧神栖町と旧波崎町の合併以来、県内でも活気ある中核都市として発展を続けています。本市の最大の特徴は、日本屈指の規模を誇る「鹿島臨海工業地帯」を擁している点です。石油化学やエネルギー、金属加工などの広範な産業が集積しており、製造品出荷額等において県内トップクラスを維持する、茨城県の経済を牽引する存在となっています。また、温暖な気候を活かした農業も非常に盛んです。特にピーマンは全国一の出荷量を誇るほか、千両や若松といった花卉栽培でも知られており、工業と農業がバランスよく共存している点が大きな特色です。教育環境については、小学校 14 校、中学校 8 校が設置されています。少子高齢化が進む現代において、県内でも比較的高い出生率を維持しています。

2 NEXT10について

神栖市では、次世代を担う子供たちの成長を支える柱として、10 年後を見据えた「授業・学校・人」づくりをキャリア教育の視点から推進しています。この取組は、単なる職業教育の枠を超え、以下の三つのフェーズで重層的に構築されている点に大きな特徴があります。

(1) 保育園・幼稚園から中学校卒業までの 10年間

保育園・幼稚園から小学校、中学校へと至る円滑な連携を通じ、発達段階に応じた継続的な支援を行います。集団生活や多様な学習体験の中で、子供たちが自らの価値を認める「自己肯定感」と、集団の中で役割を果たし他者に貢献する「自己有用感」を育むことを中核に据えています。

(2) 中学校卒業から25歳までの10年間

義務教育終了後も、高校・大学、そして社会人という各ステージが途切れることなくつながる仕組みを構築しています。地域社会全体で若者を育てる「人づくり」を「まちづくり」の一環として捉え、若者が地域への愛着を持ち、主体的に社会に参画する基盤を整えています。

(3) キャリア教育を推進する仕組みづくりや専門的人材が生かされる場づくり

学校現場だけで完結させず、外部の専門的人材がその知見を最大限に発揮できる場を創出するとともに、教育と産業、行政が一体となってキャリア教育を推進する仕組みを制度化しています。

このように、神栖市は「ひと」の成長を点ではなく保幼小中の 10 年、その後の 10 年と、20 年という長期的な成長の流れとして捉えています。強固な産業基盤を背景に、次世代が自己の可能性を切り拓き、地域社会の持続的な発展に寄与する「神栖キャリア教育」のモデルを確立しようとしています。



3 10年間の学習を支える3つの柱

(1) キャリア・パスポートで「自分らしさ」を発見!

児童生徒一人一人が、自らの歩みを振り返り、未来の自分を描き出す「キャリア・パスポート」。この取組を単なる記録に終わらせず、真の「自分らしさ」を発見するプロセスへと高めるため、神栖市では以下の2つを軸に指導を充実させています。

① 系統的な学びで育む、自尊感情と自己肯定感

各学校では、発達段階に応じたキャリア発達の特性を深く理解し、小学校から中学校、そして高等学校へとつながる「学びのバトン」を意識した指導計画を策定し共有します。異なる学校種の活動を互いに把握することで、今取り組んでいる活動が将来にどう結びつくのかを明確にし、見通しを持った指導を展開します。日々の成功体験や試行錯誤を丁寧に記録し、客観的に自分の成長を実感させることで、「自分にはこんな力がある」「ありのままの自分でよい」という、自尊感情と自己

肯定感をじっくりと培っていきます。

② 確実な引き継ぎが支える、一人一人に寄り添った支援

子供たちの成長の軌跡である「キャリア・パスポート」の情報は、学年や学校の壁を越えて確実に共有されます。各教員が子供たち一人一人のこれまでの葛藤や気付きを的確に把握することで、環境が変わっても途切れることのない「きめ細やかな支援」が可能になります。校種間の円滑な連携体制を構築し、過去・現在・未来を一貫した視点で見守る体制を整えることで、子供たちが安心して自分自身のキャリア（生き方）を模索し、磨き続けられる環境を保証しています。

(2) 自分たちで考え、動く!解決への道

① 未来を展望し、組織で支える「キャリア教育推進計画書」の策定と充実

各小中学校において、義務教育9年間を見据えた「キャ

「キャリア教育推進プロジェクト」実施計画書

「キャリア教育推進プロジェクト」
～10年間学ぶ意欲を継続させるために～

1 学校名（児童生徒数 教職員数）

2 児童生徒に身に付けさせたい力（育てたい力）◎は重点とする力

◎ 学習や活動と自分の将来や生活を結び付けて生かそうとする力

◎①なえる力：キャリアプランニング能力

○ 他者と関わるときに、相手のことを考えながら、思いを伝えたり、受け止めたりする力

◎②たえあう力：人間関係形成・社会形成能力

◎ どんなどきでも、前向きな態度で行動しようとする力

◎③りぬく力：自己理解・自己管理能力

○ 課題に直面したときに、多様な方法で解決しようとする力

◎④ふうする力：課題対応能力

3 プロジェクト名

「わくわく トライ! か・つ・や・く」プロジェクト

4 プロジェクト内容

○ 基礎的・汎用的能力を本校児童の実態に応じて自校化した、キャリア教育の合い言葉「か・つ・や・く」の視点を取り入れた教育活動を実施する。

○ 教科等横断的な学習や相手意識・目的意識をもった学習を計画的に実践することで、学んでいることが他の学習や生活、将来の夢につながっていることを児童が自覚できるようにしたり、自己有用感を味わえるようにしたりすることで、児童の主体的な学びを促すようにする。

○ 外部人材との連携・活用を図ることで、児童にとって職業について考えたり、生き方について触れたりする機会を確保し、児童の学ぶ意欲が向上できるようにする。

○ 学校行事や縦割り班活動等を実施する際は、児童会役員、学級委員、学級委員、実行委員、縦割り班の班長等が中心になって企画・運営する機会を意図的に多く設定し、児童の主体性を育んだり、自己の役割を自覚させたりすることで、学校に貢献する経験や人の役に立つ経験を積み、自己有用感や所属意識の醸成を図る。

5 予定実施時期

令和7年4月～令和8年3月（通年）

6 各学年及び教科等の目標

学年・教科領域	目 標	基礎的・汎用的能力
1・2年各教科	学習していることの楽しさや大切さを感じることができる。	かなえる力
3・4年各教科	学んでいることの必要性や大切さを感じ、自分の生活と結び付けて考えることができる。	かなえる力
5・6年各教科	学んでいることの必要性や大切さを感じ、相手の事や生活と結び付けて考えることができる。	かなえる力
特別活動	自分の役割を自覚し、どんなどきでも、前向きな態度で行動しようとする力	やりぬく力

7 活動予定

	特別活動・縦割り班活動等	学習スタイル
5月	委員会活動開始（通年）縦割り班活動開始（通年）	職員研修（通年）
9月	職業人の話を聞く会（高学年）	研究授業（通年）
11月	人権集会 第6学年修学旅行（職業体験）	提案授業（キャリアの視点）
3月	児童会役員立会演説会・役員選挙 6年生ありがとうの日 卒業式	・授業力向上・環境整備

8 今年度、期待される成果

○ キャリア教育の合い言葉「か・つ・や・く」の視点を取り入れた教育活動を実施することで、協働的に課題を解決し、学んだことを他の学習や生活、将来の夢に生かそうとする児童の育成が期待される。

○ 各教科や特別活動等で相手意識や目的意識をもった異学年交流を計画的に行うことで、自分の役割を果たすことの大切さや人の役に立つ喜びを実感し、児童の自己肯定感や自己有用感の高まりが期待される。

9 その他

○ キャリア教育の視点を踏まえた、持続可能で、児童にとって効果的な授業や学校行事等の実践を推進する。

リア教育推進計画書」を策定し、学校全体の教育活動の中にキャリア教育の視点を明確に位置付けています。

推進計画書は、教員が「どのような資質・能力を育てるか」という共通認識をもつための重要な指針となります。単なる学校行事に終わらせることなく、日々の教科の学習や特別活動、学校行事などを有機的に関連付け、子供たちの変容を組織的に捉えます。地域や企業ともビジョンを共有し、学校・家庭・地域が一丸となって子供たちの夢の実現を支える体制を強固に構築していきます。

② 社会との接続を意識し、自立の基盤となる基礎的・汎用的能力の育成を体現

日々の教科の学習において「この学びが将来、社会でどのように役立つのか」という視点を常に提示し、学校での学びと実社会の結びつきを意識させます。

将来、子供たちが社会的・職業的に自立するためには、専門的なスキル以上に、人間関係形成能力、情報活用能力、意思決定能力といった「基礎的・汎用的能力」が不可欠です。職場体験やインタビュー調査、職業人と語る会、外部講師を招いた授業などを通じて、多様な生き方や働くことの意義を実感させ、社会の変化に柔軟に対応しながら自分らしいキャリアを切り拓いていくための、揺るぎない土台を育成します。

③ 社会の担い手として、課題解決を話し合い、実行する主体性の育成

子供たちが、学校内や地域、さらには現代社会が直面している課題に主体的に関わる姿勢を重視します。

「誰かが解決してくれるのを待つ」のではなく、身近な問題に自ら目を向け、よりよい社会にするための方法を多角的に議論し、具体的な改善策を提案したり、実行したりするプロジェクト型の活動を推進します。仲間と対話し、試行錯誤しながら行動を起こす経験を通じて、社会参画への意識を向上させます。「自分たちの行動で周囲が変わった」という手応えは、社会を支える一人としての自覚を芽生えさせ、困難な課題にも立ち向かう実践力を養うことができます。

④ 成果を可視化し、次年度へつなぐ「キャリア教育実績報告書」の作成

実績報告書では、年間を通して取り組んだキャリア教育の成果を、子供たちの変容や具体的な活動事例とともに整理します。計画と実践の連動性を振り返り、成果と課題を明確にすることで、次年度の改善に生かす循環を生み出します。また、学校・家庭・地域が成果を共有することで、キャリア教育を支える協働体制の強化にもつなげます。

(3) 「本物」に出会い、夢をふくらませよう！ キャリ☆フェス神栖

① 子供たちの探究心を育てる体験型ワークショップ

市内外の企業・事業所や近隣大学の協力を得て開催される「キャリ☆フェス神栖」は、子供たちが社会の最前線に触れる最高の実践の場です。ここで展開されるワークショップは、単なる見学や疑似体験ではありません。プロの技術や大学の研究を実際に体験しながら学びを深められる、実践的なワークの場です。

子供たちは、教科書で学んだ知識が目の中の製品や技術とどのようにつながっているのかを実感し、知的好奇心が大きく刺激され、学びへの意欲が一段と高まります。学校・地域・多様な組織がスクラムを組み、神栖の未来を創る子供たちの「もっと知りたい」という探究心を、地域一丸となって全方位から支え、育んでいきます。



② 多様な先輩たちとの対話が導く、未来につながる「新しい自分との出会い」

キャリ☆フェス神栖の会場では、中学生が自分の未来について、高校生や大学生、地元の社会人、そして大学教授らと膝を突き合わせて語り合う「未来対話」の場を創出しています。思春期という多感な時期にある中学生にとって、家族や先生とは違う立場の大人たちとの交流は、新たな自分を映し出す鏡のような存在になります。

憧れの高校生活、専門的な大学での研究、そして社会で働くことの喜びと難しさ。多様な価値観を持つ先達との対話を通じて、中学生は自身の可能性を再認識し、「自分はどのように社会に貢献したいのか」という問いに対する自分なりの答えを、より具体的かつ主体的に描き出していきます。

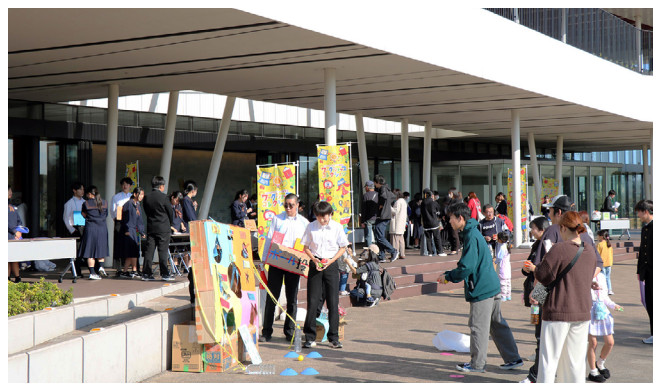


③ 社会とつながる力を育む「中学生起業体験」

キャリ☆フェス神栖では、中学生が自らのアイデアを形にし、社会に向けて価値を届ける「中学生起業体験」を行っています。身近な課題や地域の魅力に目を向け、仲間と意見を交わしながら企画を練り上げていくプロセスは、まさに“自分の力で未来をつくる”実践の第一歩です。

中学生たちは企画づくりの過程で、まず身の回りにある課題や地域の魅力に目を向け、どのような商品やサービスが求められているのかを丁寧に考えます。実際に話を聞いたり調べたりしながら、必要とされるニーズを把握し、「どんなものなら喜んでもらえるだろう」と想像を広げていきます。アイデアが固まると、仲間と意見を交わしながら形にしていき、試作品づくりや改

善にも挑戦します。そして、完成した商品を自分たちの言葉で紹介し、来場者に販売します。自ら考え、工夫し、届ける一連の体験を通して、子供たちは社会とつながる手応えを実感し、主体的に行動する力を育んでいきます。この一連の体験を通して、中学生は「自分にも社会を動かす力がある」という確かな自信を育み、未来への視野を大きく広げていきます。



4 おわりに

本市は、幼保から中学卒業、さらに25歳までを一つの成長の流れとして捉え、切れ目なく学びを支える体系的なキャリア教育を進めています。子供たちはキャリア・パスポートを通して自分らしさを見つめ、課題解決型学習により主体的に考え行動する力を育みます。さらに、「本物」との出会いを提供するキャリ☆フェス神栖によって夢や将来像を広げ、地域全体で子供たちの未来づくりを支えています。特に、キャリ☆フェス神栖は、今年で5回目を迎え、参加団体や教育関係者から高い評価をいただく取組へと成長しました。産業界・学校・行政が一体となって築いてきた連携は、着実に深まりつつあり、こうした協働の力が子供たちの成長を後押ししています。

今後も、教室だけでは得られないリアルな体験を大切に、子供たちが誇りをもって未来を語るキャリア教育を推進していきます。